令和５年５月26日（金）

令和４年度の研究報告ならびに令和５年度の研究計画案について

茨城県教育研究会家庭，技術・家庭教育研究部
中学校研究企画部

１　令和４年度の研究について

今年度より，新たに「生活や社会を見つめ，よりよく課題を解決できる生徒を育成する技術・家庭科教育」を研究主題に掲げた。今年度の研究における成果と課題は，次のとおりである。

【成果】

（県全体）

・研究組織の体制を整理し，各地区における先生方の役割を明確化できた。
・関ブロ栃木大会における提案発表（紙面発表）
　技術分野：小美玉市立美野里中学校　川﨑　裕典　先生
　家庭分野：日立市立滑川中学校　　藤田　香奈　先生
・技術分野　研究企画部研修会（令和４年12月　講師：教科調査官　渡邊　茂一　先生）
・家庭分野　中央地区研修会の授業参観，助言（令和５年１月＠水戸市立国田義務教育学校）

（各地区）

・地区内における研修を実施することができた。
　→　県西　技術・・・関ブロ群馬大会に向けた授業研究会（12月と２月）
　→　中央　家庭・・・関ブロ群馬大会に向けた授業研究会（１月）
　→　県東　技術・家庭・・・合同研修会

【課題】

・新型コロナウイルス感染症への対応や働き方改革により，集合研修が実施ほとんど実施できない状況下だったことで，全県的な研究活動ができなかった。
・オンライン研修の想定もあったが，実現まで踏み切れなかった。

県全体として研究を推進する体制が整えられていないことから，今年度は各地区が自主的に研修や授業研究に取り組んでいただいた内容が成果となった。次年度は，地区の一部の先生が研究に取り組むのではなく，技術・家庭科を担当する多くの先生が県の研究に関われる内容を提案していきたい。

２　令和５年度の研究について

来年度の研究は，県の研究主題を推進するために，以下の取組を実践していきたい。

①　研究主題に関する実態調査を実施し，県全体の傾向をつかむ。
　→　生徒の資質・能力の育成状況を把握する。
　　教師がどのような指導を実践しているか，傾向を把握する。
　　➢　Google Form等を活用したアンケートの実施（できれば５月）。

②　研究企画部員，研究推進委員等が情報交換する機会を確保する。
　→　次年度も，集合研修の機会が十分確保されるかは不透明であり，技術・家庭科を担当する教員同士のコミュニケーションが希薄になってしまう。特に，近年は新規採用者が増えており，技術・家庭科を担当する20代の教員は「相談できる人がいない」という困り感が大きい。日頃実践している授業と県の研究主題の関連性を研究企画部が見出してあげるような体制を作れれば，若手教員が主体的に研究へ参画しやすくなると考える。
　　➢　Google Meet等を活用したオンライン研修の実施。